

港 湾 経 濟 研 究

都 市 と 港 湾

日本港湾経済学会年報

No. 17 1979

日本港湾経済学会編

序

日本港湾経済学会は、今年で第18回の全国大会を「神戸港」においてむかえようとしている。その共通論題は「都市と港湾」という現代港湾のかかえるきわめて本質的な、しかも幅の広い課題である。もともと文化の発展は港から生じ、都市は文化形態の代表的なものである。本学会がそうした本質的課題にとりくみ、学会としての客観的な方向を見出そうとすることが、個々の都市と港のためのみならず、ひいてはわが国の文化の発展にとって大きな礎石となるものと信ずる。

この学会年報は、以上の共通論題と各ユニークな自由論題の研究論文等を中心として、編集されるものであるが、それらが大会において有意義に用いられると共に、広く内外の社会においても文献として貢献しうるよう願うものである。また学会年報の刊行は研究報告会とならんで学会活動の核をなすものであるが、幸いに学会創設と共に号を重ねて（No.17）となった。この号を含めて、執筆者の各位をはじめ、わざわざい編集等をして下さった委員の方々にも感謝をしなければならない。また学会財政が乏しい昨今にもかかわらず年報が刊行できることは、ひとえに賛助会員の方々のおかげであり、誠意をもって印刷をひきうけてくださった文化印刷社にも厚くお礼を申上げる次第である。

最後に昨年7月、忽然として天に召された会長東寿先生を憶う。東先生は毎回の大会時にいつもお元気で討論に参加され、またこの年報にも有為な玉稿を寄せて下さっていた。今は天上でのご冥福を祈ると共に、残された私たちが、いよいよ研究を深くし、学会活動を盛んにして先生にお応えする途しかないようにも思われる。この号ではその意味をふくめて、とくに「東先生追悼文」をふくめさせて頂いた。この玉稿は会員のみならずご遺族、ご生前とくに関係の深かった方々からも賜ったことを付し、改めてお礼を申し上げる次第である。東先生のみ靈が永遠に安らげくあられることを乞うと共に、この年報もまた永遠に港の真理を追い求め学会と共にあらんことを願う。

昭和54年盛夏

日本港湾経済学会々長代理 北見俊郎